

日本史研究推進委員会

共同研究 「神奈川における交易・交流―神奈川を

めぐるモノを活用した日本史教材―」経過報告

県立川崎高校 白川重敏

日本史研究推進委員会の十八年度の研究活動は、四年目となる共同研究テーマ「神奈川における交易・交流―神奈川をめぐるモノを活用とした日本史教材」に基づいて実施した。この研究活動は、観点別評価が実施されゆく中、地域にある史料を使って、それをどのように教材化し、授業に生かすことが出来るかを研究課題としている。委員会は毎月一回、八月と二月を除いて、委員の勤務校や県内施設を使って月例会を開き、秋と春の研究発表会で発表してきた。また恒例となった世界史研究推進委員会との合同委員会も実施し、活発な討議がなされた。また七月には全歴研栃木大会に日本史からは矢野慎一（六ツ川高校）が参加・発表し、神奈川の研究水準の高さを披露した。八月には恒例となった夏季巡検を実施し、一月にも実施した。また今年度は秋の研究発表を初めて世界史と合同で企画し、双方の発表を同時に聞け、参加者から好評を得た。次年度も前向きに検討したい。各月例会場、研究発表者は次のとおりである。

【月例会】

四月（湘南台）・五月（建長寺）・六月（外短附・日世合同）・七月（県民センター）・九月（神奈川総合）・十月（湘南台）・十一月（県歴博）・十二月（伊勢原）・一月（保土ヶ谷）・三月（七里ガ浜）

【研究発表】

○秋季研究発表会（十月十八日）神奈川県民センター*日世合同企画

「鎌倉府と寺社―鎌倉府の所領政策の一齣―」

風間 洋（鎌倉学園高校）

○春季研究発表会（三月七日）神奈川県民センター

「戦時下の学校」

香川芳文（伊勢原高校）

「生徒会誕生―GHQの教育改革と学校現場―」

白川重敏（県立川崎高校）

○全国歴史教育研究協議会栃木大会（七月二十七日）（鬼怒川温泉）

「戦時下の箱根」

矢野慎一（六ツ川高校）

【夏季巡検】

八月二十五日に、旧東海道品川宿を巡検した。品川宿は旧東海道が保全されており、往時の賑わいを今も残している。幕末には高杉晋作・伊藤博文などが密議をしたり、新選組が鳥羽伏見で敗走後、滞在した場所でもある。宿場巡検後、品川歴史館でお復習し、その後大森貝塚へ足を伸ばし、考古学の出発地を実踏検分した。

【冬季巡検】

今年度は冬季にも実施し、一月五日、保土ヶ谷高校で月例会後、旧東海道を神奈川宿方面へ“下り”、旧保土ヶ谷宿を巡検した。品川宿とは趣が異なり史跡保存・保全、地域開発について自治体で温度差があることを比較できた。次年度も魅力ある巡検を企画する予定である。

最後になったが、月例会の会場をご提供していただいた各高等学校、県民センター・県立歴史博物館・建長寺に感謝申し上げます。また、今後ともご理解・ご協力をお願いする次第である。